

# 14シーボーグ750MT

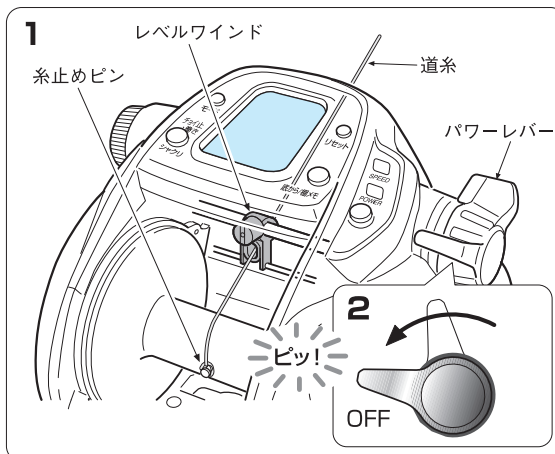
## 道糸入力方法「リールに巻く糸の長さがわかる編」

リールに巻く糸の長さがわかっている時に便利な方法です。  
(PE6号700mを巻いて入力することを例にしてご説明します。)

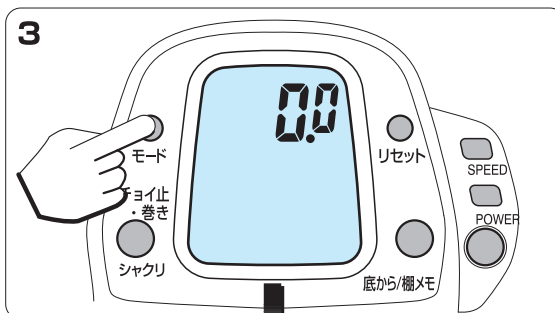
### 1. 道糸をレベルワインドに通してスプールの に結んでください。

- ※付属の糸通しピンを使うとかんたんに通せます。
- ※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

### 2. パワーレバーを手前に戻します。



### 3. リールを通电させ表示が **0.0** のときに モード スイッチを5秒間押し続けて ください。



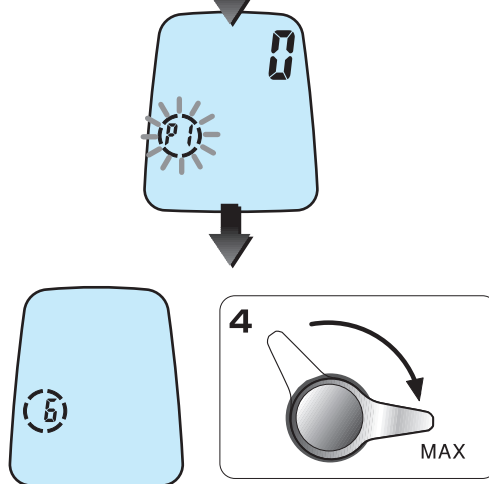
右図のような表示に変わり **P1** が点滅します。

- ※ドラッグがゆるんでいると糸が巻けませんので、しっかりとドラッグを締め込んでください。

### 4. パワーレバーをMAXの位置まで倒して 道糸を巻きます。

- ※安全のため、パワーレンジでスタートしますが、モーター過熱防止のため、スピードレンジに切り替えて巻上げを行ってください。

パワーレバーを倒すと **P1** (画面左下の数字) がテンション表示に変わり上のカウンターの数値が上がります。  
パネル左下の数字がスピードレンジで6~8になるようにテンションを調整して巻いてください。



## 注意

- ・フィンガーカバーに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間(※1)かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し、故障の原因になります。できるだけ速いスピードで入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。
- (※1) 10分間連続で糸を巻くと、モーター過熱防止機能が働き、モーターが停止し、画面表示が点滅、5分間全ての操作ができなくなります。コマセタイマー部に4→3→2→1→0(分)とカウントダウンし、「ピー」と鳴ったら停止前の状態から入力可能です。